

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人 心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494-8		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	平成29年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2070200411-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成29年2月22日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設の併設型のグループホームとしてのメリットを最大限に活かすこと ・併設の介護老人保健施設の医療面のバックアップ体制による安心機能。 ・併設施設の設備の利用や職員の協力により、バリエーションを広げた生活環境の構築。 ・恵まれた自然環境の下で、四季の移り変りを感じながら、仲間と生活する喜びを感じていただくこと。 ・地域の皆さんとの交流や訪問していただく方々との親睦を深めること。 ・グループホームの理念を実践していくこと。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>利用者の介護度が徐々に高くなり、行動範囲も狭まっている現状の中で、ローズガーデンの一番の強みは併設施設との協働体制の充実で、医師・看護師・薬剤師・栄養士等の専門的な指導・アドバイスの下での介護職が、利用者の暮らしを支えている事である。</p> <p>また、併設施設と合同での行事や毎週のボランティアの活動で馴染みの方と共に楽しむ事は、外出が特に難しい利用者にとっては何よりの喜びと張りのある時間となっている。</p> <p>さらに、ここ数年で地域との関係が進み、施設全体で開催するローズカフェへの地域の方々の参加、地域住民の後押しでのコミュニティバスの乗り入れなどで来訪者が増えているなど、事業所の長年の取り組みと地域の理解が深まった結果は利用者の豊かな暮らしへと繋がっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かく思いやりを意識し、家庭的な雰囲気になるようゆったり接し、笑顔で接することを心掛けています。	日々生活を共にしている利用者の尊厳を大切にし、笑顔で接している職員の姿は家族アンケートからも高い評価を得ていることが分かる。常に理念を意識してのサービスの提供と場面ごとの話し合いで、利用者が居心地良い家となるように努めている。	これからも理念である「家庭的な雰囲気」について、何が家庭的なのかを利用者目線で考え、一方的にならないように注意しながらの益々の支援を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中山地区の敬老会に参加させていただいています。内田福祉広場に行き、喫茶に参加し地域とのつながりがもてるようにしています。地域ケア会議への参加等積極的に参加できるようにしています。	事業所を含め組織で取り組んでいるローズカフェの開催で、地域の方が大勢訪れるようになり、ホームでも新たな繋がりが増えている。地域の行事や集まりに出掛けていく機会と地域の方の訪問が増えたことで、利用者の生活の幅の拡大と法人・事業所への理解の深まりとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人でローズカフェを開催。認知症予防・体操を行い、喜ばれている姿もみられ、地域貢献への取り組みとして行う機会が持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、認知症やグループホームの説明・日々の利用者様の様子を話し、理解も増してきて、協力関係が少しずつ築けてきています。今後も普段行っていることを取り上げ、委員の方々から意見をいただきたいと思っています。	会議では広報を基に事業所の取り組みを説明したり、ローズ祭やローズカフェへの参加で内容を知ってもらうとともに、利用者・職員の活動の様子を話している。それで、参加者は前向きな意見・助言を述べやすく、事業所と一緒に支えていこうとする姿もあり、地域と事業所の橋渡しの役となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて意見交換をし、連携を保てるようにしています。	運営推進会議のみでなく、事業所が地域ケア会議のメンバーとなったことで、地域福祉についてお互いに考え支援していく機会を通して、更に繋がりがりや連携が増している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行い、会議等でも職員が意識できるよう勉強しています。	家族には身体状況や病気の症状による危険性が伴う事項について説明するとともに、危険性への予防と回避に努めた支援をしている。虐待防止委員会が中心となり、身体拘束・虐待防止の研修において意識を高め、本人が不穏の時は状況分析を行い、就寝を共にしたり床にマットを敷くなどの工夫や安全面の配慮で、束縛のない安全な生活を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人や施設内で研修会や勉強会を行っています。職員間でも日々のカンファレンスを通じ防止に努めています。言葉による虐待については注意を払って防止につなげています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度への研修会に参加し、職員の学ぶ機会がもてるよう、また、研修報告をし、理解が持てるようにしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事務部門で行うようになっています。内容の疑問等についてはその都度スタッフが説明をしています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は現状を伝えるとともに、要望等聞けるように努めています。	家族と一緒に本人を支えられるよう、常に連絡の密に努めており、家族アンケートの100%の回答率やその内容からも、双方向の協力的な姿勢がわかる。来訪の際は気兼ねなく居室で話せる配慮や、職員とゆっくり話ができる面談時間の確保に努め、家族・利用者の様子を記録するとともに、全職員が共有することで意向に沿った支援へと繋げている。	家族アンケートの結果や小さな意見・要望でも広報誌等において、可能な限りその内容と事業所の対応をフィードバックすることで、家族からの更なる信頼獲得や言いやすい環境へと繋げることができると思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との定例会議や、グループホームでのミーティングにおいて検討されている。	管理者は現場職員からの提案や意見が言いやすい環境となるように心掛け、実際、利用者へのサービス対応や支援について気軽に相談が行われている。また、ストレスチェックの導入で働きやすい環境となるような取り組みや、異動を極力少なくしている。結果として、利用者や馴染みの職員との気心が知れた生活が続いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において人事評価制度を構築中であり、職員全員で協力しています。ストレスチェックの導入等職場環境の形成を目的にしたものになるのではと思っています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、個人のスキルアップのための研修計画や各種資格取得への応援態勢を整備しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本圏域のグループホームの定例研修会への参加や、長野県の同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と十分に話しをする機会を作り、どのように生活を営みたいのかをお聞きして、希望に沿えるよう努めています。 言葉にできない方は察して接する等心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族様とも十分な話し合いを行い、グループホームでの生活について、ご本人の希望や不安などを検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いの中で、細目に対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	談話の時間を設け、コミュニケーションを図りながら仲間としての関係を築いています。手伝い等やりたい事が出来るように、一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションも大事にし、常に同じ立場でご本人のことを考えるような関係を築くことを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	松本周辺のドライブや自宅周辺に行くことで安心され、思い出にされてもいるようで、今後も継続していきたいです。 馴染みの方の面会も居室でゆっくり会うことが出来ています。また、行事参加で、今までいた老健職員とのつながりを大切にしています。	馴染みの関係の継続については家族が行っていることが多いが、本人・家族からの要望があれば前向きに支援している。 また、利用者から聞き取った馴染みの場所や希望先へは、毎月の外出支援として出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、大切にすることで、利用者同士のトラブルに配慮しながら、協調していく関係作りを目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、必要に応じ相談や助言を行っています。老健にいかれた際は声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、どのような生活を望んでいるのか、どんなことをしたいのか、コミュニケーションの中から汲み取れるように努力しています。	本人の今までの暮らしの情報把握と「ここでどのように暮らしたいか」を傾聴したり、家族からの情報協力で、可能な限り本人本意となるように努めている。 利用者と職員が共に明るい雰囲気の日々となっているのは、「毎日笑顔で過ごす」の理念を共に理解し目指しているものと思われる。	利用者の身体状況や様子・環境などで推し測る事が徐々に増えてくると思われるので、今までの積み重ねの実施記録等の活用が期待される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族様との話し合いやご本人様との会話の中から、これまでの様々な情報についての把握に努めています。 また、面会時での話の時にも情報把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が日々の様子を観察し、現状の把握、出来ることは何かを考えて行っています。 また、バイタルチェック・表情の確認をし、日々の申し送りで伝えています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係する部署や以前の様子を知っている方からの情報、また御家族様からの意見を取り入れて、スタッフ全員で介護計画を作成しています。	アセスメントを基に、本人・家族の意向に沿った介護計画を皆で作成している。また、入所前の施設職員からの情報収集もある。 そして、ケースカンファレンス会議でモニタリングを行うとともに、サービス担当者会議では医師をはじめ専門職を含めた話し合いがなされ、利用者の身体状態と日常生活に応じた支援とし、安楽で快適な生活を目指すものとなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を行い、職員間で情報を共有し、介護計画の作成に反映できるようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるように工夫をしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉広場に参加したり、ボランティアの方々、幼稚園生との交流を積極的に行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院はもとより、眼科・皮膚科等他科受診は本人・ご家族様の希望があれば、かかりつけの医療機関への受診、家族への協力をお願いしています。	事業所の協力医を中心に眼科・皮膚科への受診時のファイリングに主治医から事業所へ、事業所から主治医への記録がなされている。家族が協力できない時などには受診の付き添いなどを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健看護師とは連携をとり、毎日様子を見に来ていただくなど、異常時や急変時の対応、また、状況に応じた適切な指示・処置を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは連携をとっており、情報交換を行うことで、ドクターやナースとの協働もできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては話し合いを行い、マニュアルが作成されているため対応ができるようにしています。	過去には看取りを実施したが、現在のところ看取りの対象になる方はなく、予期せぬ状況時には老健・協力医の対応で実施予定である。尚、家族などから依頼がある場合は実施していきたいと考えており、マニュアルなどは準備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には併設施設の看護師のサポートが速やかに行われるようになっていきます。また、老健と合同で、AEDの勉強会を行ってきました。事故が発生してしまった場合も考え、カンファレンスでの話し合いに取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健と合同で行う防災訓練にて、意識を高め、必要な知識を身に付けるようにしています。内田地区とは、防災無線の対象施設に加えて頂いています。運営推進会議を通し、地域の方の協力体制を検討しています。	防火訓練は老健と合同で定期的実施されている。	グループホームという形態でもあり、まずは職員のみでのシミュレーションでの訓練が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に、言葉掛けには配慮させて頂いています。面会時には、それぞれの居室でご家族の方とゆっくり話ができるように、また一緒に食事ができるような雰囲気心掛けています。	共同生活という場ではあるが、利用者にとっての居室は自宅という思いであり、利用者一人ひとりの様子を配慮しつつ、その方の気持ちに合わせた対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを行い、ご本人の意見や希望を職員がしっかりと把握できるように対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活のリズムは違うということを理解し、個別の声かけの中で本人の希望を把握する様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人の希望を聞き、好きな洋服を選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理やおやつ作りを考え、できることは一緒に手伝って頂きながら、行えるようにしています。 月に一度の行事食への参加は楽しみの場となっています。	訪問時の鍋料理の際は、職員が取り分けた物を食していたが、次第にお代わりや具材の注文が出るなど、家庭的な雰囲気が醸し出ているので、食が進む利用者があるのも納得できる。 また、その季節に応じた行事食・選択食などの実施もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量については個人の状態に合わせて対応させて頂いています。 水分については、摂取していただけるように訴え時の対応等心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っています。自分でできる方は本人ですが、できない方についてはできるところまで磨いて頂き、最終確認を職員で行っています。 老健歯科衛生士からのブラッシング指導も必要に応じ受けさせて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿量を把握し、個人に合わせたオムツの使用を検討しています。 また、定時のトイレ誘導や、排尿時の訴え等聞き、誘導しています。	夜間など自分で移動し排泄を行える方にはポータブルトイレを用意し、自分で排泄ができるようにしている。 おむつ対応の方、リハビリパンツ・布パンツ併用の方への声掛けなど、昼夜問わず状況対応を変えながら自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の中で、カスピ海ヨーグルトを提供したり、歩行・水分摂取を促し便秘の予防に努めています。 下剤も一人ひとり調整させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望により時間帯をあわせています。ゆったりとした入浴ができるよう1対1の入浴を心掛けています。	体調状況などを見ながら、時間帯・対応職員数などに配慮して子浴槽での対応を行っている。体調によっては併設の老健での特浴で対応するなども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときには、いつでも休めるように個々のリズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導の下、服薬管理を行っています。薬の内容や副作用等を理解し、個々の服薬支援ができるよう連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・踊り・演奏等様々な老健行事に参加し、楽しみの一つになっています。また、散歩に出て、気分転換が図れるように支援させて頂いています。嗜好品は飲みたい時にいつでも飲める環境を整えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム内で定期的な外出を計画していません。季節に合わせたドライブや外食、利用者の意向を聴きながら支援に結び付けています。自宅周辺に行ったり、家族の協力によって、外食・外泊が出来ています。	定期的な外出支援を行う他、月1回のローズカフェへの参加や、週1回の老健行事への参加もある。外出での天候やトラブル等の際は、安全を考え車内で軽食を取ったりするなど、柔軟な対応に努め外出を楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、本人に管理をお願いしており、持つことで安心していてもいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話のやり取りの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、テレビの音量には配慮をしています。 また、昔の音楽を流し、一緒に口ずさみながら、ゆったりとした空間を作るように心掛けています。	ホーム内は空間を広くとった造りで、リビングや食堂も玄関から近く、待ち人が来ると利用者の出迎えが可能である。 また、所々の花・植物、室内犬が利用者の居心地の良さを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が自由に過ごせるように、椅子や机を数か所に置いている。 また、入居者の方が好きな場所を職員が把握して、誘導する様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参して自分で利用できる方は、部屋に置いてある方もいらっしゃいます。また、家族の写真等を飾り本人の居場所となるようにしています。 ホームでは、写真や馴染みのあるもの等持ってきていただけるようお願いしています。	居室・共有空間・壁などは、落ち着きが保てる温かみのある色彩で統一されている。 居室にはクローゼットが設置されているが、拘りのある方もおり、室内にそのままハンガー掛けの方もいて、自分の居心地よい居室として認識していると思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリテーションを行うことが容易です。 また、車いすが自走できる方には自立できるようなスペースとなっています。 そのため、見守りを徹底し、安全には最大限の配慮をして生活していただいています。		